

2023年3月27日

2022年度 第1回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2023年3月27日(月) 10:00-11:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 ホール
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2022年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

本校における授業内容および学生指導が将来の職業実践に寄与しているか、について前回2021年度に意見・提案のあった点を、2022年度は修正あるいは取り入れて実施できていたかに関する報告

(1)2021年度 教育課程編成委員会 議事報告(松本主任) 2021年度の意見に対してそれぞれ実施内容を説明する。

意見① / 卒業生講話の実施により、職業観の育成とサロン現場の知識を在學生に伝えることを強化すべき。

実施① / 63期卒業の井草君を卒業生講話に招聘し、自身のステップアップを在學生に伝えてもらった。県内のサロンで5年間の経験を経たのち、自身のサロンを開くにあたり都内へ進出、トレンド・サロンでキャリアを磨いているという実例である。

意見② / サロンワークのシャンプー技術の正確さ、丁寧さを習得するマニピュレーションの徹底を図って欲しい。

実施② / スタンドシャンプー、リアシャンプー、サイド・シャンプーなど新校舎の設備ではあらゆるシャンプー実習が可能になったので、前年に比較するとしつかり実施できた。また、外来講師を招聘して技術の正確さ、丁寧さを学ぶ機会を設けた。

意見③ / 理容業は接客業であるので、お客様とのコミュニケーションとして笑顔で挨拶、素直に話を聞くことへの意識づけを学校生活の中で日ごろから意識づけして欲しい。

実施③ / 学生は自分の気分によって笑顔や挨拶ができたりできなかつたりしている。接客をふまえて自分の気分でなく実施するように職業人としての指導をしてはいるが、十分に指導の結果は出ていないのが現状である。

意見④ / 基本的な生活習慣の中で、日常生活からの社会人としての行動や規範を意識して取り組む姿勢が望ましい。

実施④ / 授業中に座っていること、話を聞くことすらままならない学生もいる。本来家庭で指導していく基本的な生活習慣を、専門学校の2年間で身に付けさせていくのは非常に難しい。

## (2)2022年度 授業報告

これらの改善に資するため、2023年度はコロナ禍の影響に十分配慮しつつ2022年度は以下の活動を実施した。

- 1 ミルボンのヘアー・ショー見学。イベントに参加するための身だしなみや見学マナー、実際に会場で高い技術を見るという経験をする。
- 2 12月20日・川口リリアで開催された「埼玉県美容技術協会」主催のフラメンコ、オペラなど文化的なステージ体験を通して、自身の興味分野以外に芸術に触れる機会を設けた。
- 3 3月に70期生(1年生)が春日部支援学校へのボランティアを実施。社会人としての身だしなみ指導(ヘアセット、洗顔、ネクタイの結び方など、メイク、スキンケア)を行った。本校参加者は、男子学生14名、女子4名であった。学生が社会福祉で学ぶ以上に、現場で動いていた。思いやり、人を助けて役に立ちたい気持ちなどが培われた。
- 4 69期2年生のヘアー・ショーは、理容科20人という規模の中で2年間のチームワークがよく活かされて優れた作品を披露できた。

(司会・千住) 以上が2021年度の見解・提案を活かした2022年度の取り組み報告となる。その他、2022年度の理容科実績報告は

## 進級 1年次退学は2名

内訳として、入学後3日で理容店の指定である学生が、家業を継がないことを理由に自主退学が1名。また9月末に学費未納と無断欠席及び連絡先不明により除籍処分1名。

卒業 20名(在学全員)

就職 2名未定 中国籍であって母国に戻る者1名、志望店舗への再チャレンジにより今年度就職見送りが1名

国家試験 3月31日に国家試験結果が発表される。本校では学力の低下を痛感した。結果として1名が学科の科目0点(香粧品)での不合格を予想している。

その他行事

この年度の感謝祭は、模擬サロンを中心とするスタイルに回帰した。そのためサロンワークを強化し、9月後半からシャンプー実習などに取り組んだ。

司会 2022年度報告について意見を求める。

実施①について

若月 井草さんは埼玉支部の関根氏のサロンで働いていたようだが、現在勤務している「ダムディ」など流行りのアメリカンなサロンでの技術レベルはどうなのか、内容が不明である分卒業生講話での影響に懸念を感じる。

石井 今時、つまりトレンド・サロンから、理容店としての新しいスタイルとしての特性は学べるのではないか。しかし、偏りを避けるためタイプの違うサロンの経験であれば、複数の卒業生を呼んでバリエーションのある講話が聴けると良い。女性理容師の話も聞かせたい。

松本 正統派として組合店、特に人生の先輩として多彩な経験のある講師の参加を復活させたい。以前は理事長講演も実施していた。

実施②について

石井 シャンプー技術はサロンワークの大切な要素で、実際我々現場でも、タカラベルモントの新技术を学ぼうと計画している。

新校舎に導入された夢シャンの機材ならばヘッドスパを積極的に学べるが、一般的な理容の個人サロンではまだ普通のスタンド・シャンプーしか機材がない。その実際の元気場でも応用が利く技術を学んでほしい。但し、サロンごとに考え方も違うので、多様な機材で経験をすることは良い事だと思う。

松本 ヘッドスパをリア・シャンプー、夢シャンで実施することは教えられるが、スタンド・シャンプーの機材で、ヘッドスパはできるものなのか?

石井 マッサージで指圧やもみほぐしなど、スタンドでも工夫次第で、ヘッドスパのようなサービスは出来る。ツボ押しやマッサージのテクニックであれば可能。北浦和・旧校舎の実習室でスタンドのスタイルでヘッドマッサージ講習をしたが、問題は感じなかった。

松本 今現在、理容サロンでのマッサージはどのような位置づけなのか。

石井 ヘッド・マッサージにツボ押しやスチームをプラスした、エステやスパ的なメニューとして、サロンの付加価値として行っている。

#### 実施③及び④について

石井 挨拶・返事などのマナーが学生の気分で変わってしまう点は、社会に出てからは修正が厳しいので、学生のうちから身に付け、育てるべきだが、なかなか難しいのではないかな。

松本 家庭生活で十分対応できていない分、学校生活にメンタルの問題が持ち込まれていると感じる。

吉野 家庭生活での不満や悩みが学校生活に反映しているし、学生にとってはぶつける先がないのではないかな。

福島 家庭での躰など抑圧があって、また学校で規則や縛られることがあると鬱積しがちなのではないかな。

吉野 中学、高校で教師が指導しづらくなった分、指導や躰ができていない状態で専門学校に来れば、学生も違和感がある。急には指導に従うことが難しい。

石井 小学生時代から、親が先回りして面倒をみてしまうため、本人に問題解決能力がないと感じる。

吉野 高校生でも車で送迎していたりする。甘やかされている。

松本 確かに、授業中は席に座る、話を聞くときは静かにするから指導しなければならない。やっといういいことと悪い事の区別が理解できていない。

司会 2022年度報告について、有用な意見が得られたので第1回目は問題提起としてここで終了し、次回は問題点の解決のために更なる意見を求めたい。

校長 挨拶(会議時間終了)

2023年3月27日

2022年度 第2回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2023年3月27日(月) 12:30-13:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 浦和校舎 2階 ホール
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	石井 孝之	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
2	福島 正尚	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事長
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会 幹事
4	吉野 昇邦	埼玉県理容生活衛生同業組合 常任理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
7	松本 朋子	埼玉県理容美容専門学校 理容科主任

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2022年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)  
本校における授業内容および学生指導が将来の職業実践に寄与しているか、について2022年第1回目で意見聴取した点を、2023年度に活かして改善する方法の検討。
6. (3) 2023年度 改善に関する検討

吉野 ほとんどの問題は、基本的な生活習慣に起因する。例えばスマホ依存などは、生活のリズムが乱れるばかりでなく、落ち着きがない、集中力がない学生を作ってしまうと感じる。瞑想でもさせたらよいと思う。

松本 集中させるものが、授業以外でも何か必要だと感じる。集中力はどう養ったらよいか。

吉野 挨拶などが気分次第で徹底できないのは、目的がないから感情の起伏が激しくなるので、目的意識を持たせるべき。自分のセルフイメージを瞑想の中で描かせる。社会人になってからの目的意識も希薄になりがちなので、自分の目的を常に意識させることが大切と考える。

松本 目的意識、自分がどうなりたいかについて、まず現実を知らない。実体験をせず、自分で調べ、考える前に Google などで安易に検索してしまう。

吉野 現代生活にデジタルは欠かせないが、アナログの面白さをもっと知ってもらいたい。

石井 WBC で活躍した大谷選手の、9 マスのセルフイメージのワークなど面白いのではな

いか。笑顔を作るために何が必要なのか?など組み立てる作業をさせる。とにかく自身で考えさせることが必要である。

若月 1年生の最初にそのワークをすることを提唱したかった。1年次と2年次に実施しても良いと思う。成長とともに考え方も変わるだろう。

石井 自分自身を見つめなおすのに良いのではないか。

若月 目的を中心において、具体的な方法を考えていくワークなので、非常に有効だと思う。

松本 自分の将来設計は、まだ1年生では難しいかもしれないが、チャレンジしてみたいと思う。

吉野 甘やかされて、何も苦労していないところから、まずは意識づけをして目標を明確にする。大学でも最初から目標を明確にしていくのは難しいし、専門学校の2年間では厳しいかもしれないが、考え方だけでも学んでほしい。

司会 2023年度はコロナ禍のも終息が期待される。本校でも2022年から感謝祭など少しずつ学校行事を復活させているが、この点で何か意見をいただきたい。

若月 2022年度の感謝祭は、保護者として見学させてもらい、二年生が一年生にしっかり指導することに感銘を受けた。内容が素晴らしかった。2023年度からは、どんどんお客様が入り、サロンワークの楽しさが体験できると良いと思う。

また、新校舎は通りから見えるデザインになっている。ぜひサロン実習ではブラインドを上げて、通行する街の人たちに学生の取り組みを見てほしい。外の人たちが良く見てくれると、やはり緊張もするがその中で集中もできるようになる。

見られている意識があると、しゃんとするのはないか。ヘア・ショーも、外に向かってアピールすることが良い結果につながると思う。

松本 見られている意識は確かに大切だと思う。新校舎の施設が使いきれていない事を痛感した。見せることは確かに重要な要素である。

石井 すごく良い。ブラインドを上げるのは効果があると思う。サロンでも、自分の努力を外を歩いている人に見せなさい。と指導して様々な効果があった。

司会 実務実習を今年復活させた。この点について意見をいただきたい。

若月 娘がこの3月に美容サロンで実務実習2日間を行ったが、繁忙期で実務実習はどうだろうか?また、サロンワークで戸惑うことが多かったと聞いている。学校でのサロンワークの指導が足りていないのではないか。特に繁忙期では対応してくれる先輩も忙しく、何をしてもよいかわからなかったと言っている。あまり教育効果がないのではないか。

松本 コロナ禍で2年間実施ができず、緩和のタイミングを計っていた。確かに準備期間が取れなかったので、対応が難しかったかと思う。

松本 実務実習は、学習の中で非常に大切な要素である。進級前にぜひサロンの現実に触れてほしいと考える。

若月 期間が二日間と短いことも効果が少ないのではないか。

石井 学校で、サロンに立った時すぐできることなどを、まとめて学生に教えてほしい。サロンで戸惑うことが多いのは、カットが終わったらカットクロスを取るだけでなく、どうすればよいのか、ちゃんと先輩に聞くなど 基本の「き」ができていないためではないか。

若月 卒業生講話は、卒業してうまくいった先輩だけでなく、卒業してすぐの先輩から、講話をしてもらうことも必要ではないか。

松本 確かに、その直後の実務実習も良いと思う。

吉野 サロンの考え方にもよるが、実務実習生をしっかりと一から指導するのか、しばらく様子を見るのかで、学生が体験できねる内容が大きく違ってくる。

福島 春日部支援学校のことで、授業では力が発揮できなくても、各イベントなどで力が出る学生もある。そこから自信をもってさまざまに活躍することもある。各種のイベント、授業以外に活躍できる機会があると良いと思う。

松本 普段やっている学生が、イベントでは活躍していなかった面もある

福島 実体験を通してでないといけない、自分自身のこともある。

松本 それは、自分を多角的に知ることもできる機会になると思う。

吉野 課外授業でオペラや歌舞伎など、学生がなかなか触れられないものを体験することで、学生の感性が育つ機会になる。実体験は大切

松本 生きていく楽しさが足りていないと最近痛感している

吉野 良い刺激はとても大切ではないか。

若月 理容学生時代に、課外授業でディズニーランドに行った記憶がある。どこかで一日息抜きをしたり、キャストの仕事など、接遇を観察したりという体験も良いのではないか。サロンでの接遇も違いがあるが、色々なことが学べるきっかけも大切。

校長 費用の点で限られたイベントとはなりますが、2022年度のミルボンのヘアショーなど、そうしたイベントでも工夫して接客など学べると考える。

吉野 コロナ禍で学んでいる在校生に、「楽しさ」を体験して欲しい。何か「楽しさ」を感じてもらうことが必要ではないか。これからは、「楽しく学ぶ」が、ワクワクするが、とても求められるのではないか。

校長 成長していくこと自体が楽しめること、エンジョイすることも、両輪で楽しめる理想的である。

- 石井 卒業後に、卒業生の就職後の追跡は出来ているか？
- 松本 比較的、理容科は卒業後によく連絡してくれているので、ある程度は動向をつかめている。
- 石井 卒業後も良い関係が築けているのは良い。卒業生からのフィードバックとして多様化している業界の事も知りたい。
- 若月 例えばタトゥーの事も、最近は容認をするサロンもあるが、最近の業界の様子はとても気になる。
- 松本 国家試験でもタトゥーは失格要件でなくなった。逆にテープなど隠すと衛生で減点となります。
- 吉野 正直、タトゥーはファッションとして若い世代は考えているようだが、将来像がしっかりしていないために、そういう行も出てしまうのではないかと懸念している。
- 司会 いろいろと活発な意見交換があり、充実した会議となった。今回の改善目標は主として8つ挙げられる。

- 1 教務は卒業生講話のバリエーションを増やす
- 2 教務はシャンプーやヘッド・スパ技術について設備を活かして多様に取り組む
- 3 学生に対して、社会人としてのライフ・デザインに取り組ませる
- 4 教務は学生に「見られる意識」を与えて集中させる
- 5 教務は福祉のイベントなどを増やして学生全員が活躍できる機会を設ける
- 6 教務は学生に実体験をさせるよう授業を計画する
- 7 学生に働く意識、目的を持たせるよう指導する
- 8 学校は楽しいというキーワードを意識して授業計画に取り組む

## 7. その他

連絡事項教育課程編成委員会は年2回を予定

- 1回目 9月25日(月)      2回目 2月26日(月)

## 8. 校長挨拶

活発な意見交換に対して謝意を述べ、アフター・コロナの進捗を踏まえつつ、様々な実体験を学生に提供できるように計画することを2023年の目標に掲げる。

## 9. 閉会宣言

## 2023年度 理容科 取り組み目標

- 1 教務は卒業生講話のバリエーションを増やす
- 2 教務はシャンプーやヘッド・スパ技術について設備を活かして多様に取り組む
- 3 学生に対して、社会人としてのライフ・デザインに取り組ませる
- 4 教務は学生に「見られる意識」を与えて集中させる
- 5 教務は福祉のイベントなどを増やして学生全員が活躍できる機会を設ける
- 6 教務は学生に実体験をさせるよう授業を計画する
- 7 学生に働く意識、目的を持たせるよう指導する
- 8 学校は楽しいというキーワードを意識して授業計画に取り組む